

ハイチ地震 『富士通 支援物資配布』

サポート: ジャパンプラットフォーム
2010年4月~5月

2010年1月12日に発生したマグネチュード7.7の地震は死者20万人、負傷者31万人、行方不明者869人、被害総額77億ドルを及ぼす、地域では1770年以來の大震災となった。建物の80%が崩壊し、インフラも壊滅的な打撃を受けた。震災から5ヶ月経った今でも現地では被災者の野外生活が続いている。



富士通支援の懐中電灯を受け取った被災者



懐中電灯一つをもらうために400名以上の長い列ができ、被災者は押し合いながら受け取っていった。今まで、懐中電灯の支援は無かったため、ニーズの高さにICAも驚いた。今回、配布に至らなかった被災者キャンプがプチゴアだけでもまだ多く存在する。夜間のテント内全体を照らせる大きめのランタンのニーズも高い。

ICAは、ハイチ地震の被災者に対する継続した支援を行うため、8月に3度目の出動を予定している。日本企業で被災者への物資提供、寄附によるICAの活動サポートなどありましたら本部事務局までご連絡下さい。

ICA東京 ☎(03)3484-5092 担当: サトウ
Eメール: staff@icajapan.org



懐中電灯を受け取るうと一気に被災者が集まった

ハイチ国内では、電気、水道の復旧がされておらず、夜は暗闇の中で生活している。現地ニーズ調査を実施した際、被災者より『電気がなく生活がとても不便だ』という訴えが多かった。ジャパン・プラットフォームを通じて、富士通の懐中電灯2,688セットと電池10,368個をハイチ地震の被災者に寄与した。ICAは、物資を被災者に配布するため、現地パートナーと調整し、被災者キャンプ、学校、診療所、警察署、交番の5カ所で配布した。

ハイチ地震の現場で被災者の役に立てて欲しいと寄附された懐中電灯は、被災地で電気が復旧していない暗闇の中で生活する被災者の前向きな気持ちを後押しする光を提供する重要なアイテムとなっている。

多くの被災者の強い要望に対し、ICAスタッフ2名、現地のボランティア15名で協力し合い、被災キャンプや施設をまわり、配布を実施することができた。



懐中電灯と電池はセットで配布



診療所の代表医師へ手渡すスタッフ



中身の確認作業



現地メディアのインタビューに答える受益者



留置所の警察職員に手渡す



懐中電灯と電池のセットをもらおうと集まる人々



テント生活をする受益者家族と



懐中電灯を喜んで受け取る被災者